

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。

◆◇
◆ NEE Mail Magazine 102号 ◆

2017-7-1◆◇

文月(ふづき、ふみつき)の七月です。

七月になぜ「文」があるのか。七夕で詩歌を読んだり、書物を夜風にさらすから
という説が有力のようです。七月は、一学期の期末考査や大学の前期試験の月で
す

から、今月は、学校も特に「文」に関係が深い月かもしれません。

同時に、七月は選挙の月です。昨年は18歳選挙権で話題になった参議院選挙、
今年も国政にも影響するのではないかと東京都議会選挙があります。選挙は
政治的現象ですが、経済とも強い関係があります。経済教育関係者も無関心では
られません。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報
を提供いたします。

【1】最新活動報告

6月の活動、ネットワークメンバーの活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

夏の教室の情報、部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【3】授業のヒント「都公社研の新しい授業提案書」

【1】最新活動報告

6月に行われた活動を報告します。

■名古屋部会(No.12)を開催しました。

日時:2017年6月3日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

主な内容:参加者12名

(1)篠原代表の挨拶のあと、渡辺力樹先生(愛知県立南陽高)から「ジグソー法
を利用したビジネス・経済教育」の実践発表が行われました。大テーマを「高齢化
社会のなかで、まちを活性化させる「しくみ」づくり」とし、その下で高齢化社会
と街の活性化を考える中・小テーマを設定し、ジグソー法を用いて、テーマについて
調べていく学習です。討論や発表を通じて生徒が主体的に取り組むのでいる様子や
教員の指導のあり方について紹介と検討が行われました。

(2)佐藤央隆先生(名古屋市立はとり中)からは「先生のための夏休み経済教室 in 名古屋」で発表予定の「江戸時代の経済政策を比べよう」の内容紹介があり、その検討が行われました。歴史の授業のなかでも、公民での経済の学習に通じる力の育成に資する可能性があるとの評価がされました。

(3)篠原代表(京都学園大学)から、金融を教える上での教科書の問題点についてのレクチャーがありました。①貨幣、②金融、③日本銀行、④金融制度改革の4つのトピックスについて、高校の教科書に書かれている順番にとらわれず、関連した項目を整理して教えることで理解が深まると強調されました。また、「経済」を教える方法と共に、「経済」で教える内容について、社会を理解するために役立つ内容という観点からの再検討が必要であることが示されました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya012report.pdf>

■東京部会(No.92)を開催しました。

日時:2017年6月22日(金) 19:10~21:30

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

主な内容:参加者14名

(1)夏の経済教室の準備状況の確認を行いました。

鈴木深氏(東京証券取引所)から6月22日現在の申込数が報告され、これからの取り組みの課題が提示されました。

(2)夏の教室の小巻泰之先生(日本大学)の担当部分に関して、講義内容の要望の聞き取りが行われました。

参加の先生方からは、GDPを教えることの難しさ、何を・どう・どこまで教えるのかの見通しが見えないなどの声が出て、当初テーマの「GDPと豊かさ」だけでなく、先生方の要望を踏まえた内容を考えてゆくこととなりました。

(3)名古屋部会から参加された渡辺先生(南陽高校)の授業実践の紹介と検討が行われました。名古屋部会でも報告があったものですが検討では、授業のねらい部分で何を学ばせたいのか、地域課題とのかかわり、起業とのかかわり、プレゼンとねらいの関係、発表の時の教師のコメントの在り方などに関する質問と回答がありました。

(4)主権者教育関係で二つ報告がありました。

一つは、杉田孝之先生(津田沼高校)の「生徒の問いをふまえた主権者教育の実践」の報告です。杉田先生からは、昨年までの実践とそこから出てきた生徒の声を踏まえ、本年度の実践をはじめているという内容の報告とその検討が行われました。検討のなかで、篠原代表から、次のようなコメントがありました。「今の指導要領や教

科書は何を教えるのか、何を学ばせるかの根本が書かれていない。問題解決学習でも、問題発見と問題解決の間に分析が必要であり、それがない実践は意味がない。

杉田実践はその3つすべてがはっきりしているという意味で、きわめて優れた実践である。また、どのような実践モデルも何を教えるかという根本を意識したものでなければならない。杉田実践の主権者教育は、政策を決める人をどう決めるかという具体的なテーマがはっきりしている。」というものでした。

(5)二本目の報告は、塙枝里子先生(府中東高)からの「持続可能な社会の意思決定を考察するー経済学からみる政治参画の視点」という授業提案です。

この授業のポイントは、ライカー・オードシュックモデルと最後通告ゲームを用いて、持続可能な社会における意思決定の在り方を生徒に考えさせてゆくところです。検討では、生徒の事前と事後の変化で質的評価をしてほしいとの要望や、ライカー・オードシュックモデルで、割引率に時間軸の考え方をいれて政策選択に関する選択のケースを考察させたらどうかなどの提案もされました。

(6)テスト問題の紹介がありました。

升野伸子先生(筑波大学附属中)から、政治分野を扱っている中間考査でのテスト問題が紹介され、授業や教育実習生の様子などが報告されました。

(7)全公社研「授業研究委員会」の落合隆先生(相模原青陵高校)から、秋以降に、全公社研とネットワークとの共催で、主権者教育と経済教育をテーマとした研究大会を開催したいとの申し込みがされ、東京部会のメンバーを中心に共催事業を行うことが承認されました。

(8)その他、新井から主権者教育の研究グループでの資料、都公社研が作成した『明日に使いたくなる公民科授業実践』の第二集、が紹介されました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo092report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。

■夏の経済教室の受付がはじまっています。

東京証券取引所と共催で毎夏に行われている「夏休み先生のための経済教室」の受付がはじまっています。

(1) 現在の受付状況は以下の通りです。6月22日現在

8月7日 大阪中学向け(68名) 会場:国民会館
8月8日 大阪高校向け(54名)
8月14日 東京高校向け①(127名) 会場:東証ホール
8月15日 東京高校向け②(116名)
8月17日 東京中学向け①(123名) 会場:東証ホール
8月18日 東京中学向け②(102名)
8月21日 名古屋中学向け(22名) 会場:ウインクあいち
8月22日 名古屋高校向け(33名)

(2) 申し込み状況はほぼ例年通りですが、日程の変更などの影響もあり名古屋会場がやや出遅れています。名古屋周辺の先生方にお声をかけていただければと思います。

(3) プログラムの詳細は下記からご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

申込先は、東京証券取引所の以下のページからお願いします。

<http://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/index.html>

なお、証券知識普及プロジェクト発行の『レインボーニュース』34号(7月中旬発行)にも夏の教室の案内が掲載されています。この冊子は全国の各学校に送付されていますので、記事も含めてご覧いただければと思います。

* 定例部会のお知らせです。(既報分も含め開催順)

■東京部会(No.93)を開催します

日時:2017年7月14日(金) 19時00分~21時00分

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

参加方法などは以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo093flyerR.pdf>

■大阪部会(No.54)を開催します。

日時:2017年7月15日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka54flyer.pdf>

■札幌部会(No.18)を開催します。

日時:2017年9月16日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo018flyer.pdf>

■名古屋部会(No.13)を開催します

日時:2017年10月7日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法など詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya013flyer.pdf>

* 関連団体のお知らせです。

■金融広報中央委員会

2017年度 先生のための金融教育セミナー(8月・東京)

8月7日(月)小学校・中学校向け

8月17日(木)高等学校・大学向け

会場:日本教育会館(東京都千代田区)

<https://www.shiruporuto.jp/education/>

第14回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール(教員向け)

締め切り:9月30日

<http://www.ron2017.jp/>

同委員会では、ほかに、中高生向けの作文、論文コンクールも実施しています。

【3】授業のヒント

■東京都の先生方の新しい授業提案書ができました

5年前のこの欄で紹介した(39号、2012年4月)ことがある、東京都の公民科・社会科研究会の『明日に使いたくなる公民科授業実践』という冊子の新しい版が刊行されました。

前はサブタイトルが「言語活動を取り入れた主体的学びを実践できる指導事例集」でしたが、今回は「生徒一人一人の在り方生き方や社会の見方考え方を対話を通して深められる指導事例集」となっています。サブタイトルだけを見ると、「言葉のお守りの用法」(鶴見俊輔の言葉)のようで、個人的にはちょっと勘弁という感じですが、中身はなかなか面白くできています。

「よりよい男女共同参画社会を考える」から、「身近な取り組みとのツナガリから考える国際貢献の在り方」まで29の指導事例が、諸課題分野、倫理分野、政治分野、経済分野、国際分野の5つの区分で提案されています。

ネットワークメンバーの高橋勝也先生(都立武蔵高・中)や宮崎三喜男先生(都立国際高)、塙枝里子先生(都立府中東高)らが、経済分野だけでなく様々な分野の授業に挑戦されていて執筆をしています。

例えば、高橋先生は「価格の在り方から経済活動を考える」など5本、宮崎先生は「4コマ漫画から、税のありかたを考えよう」など7本、塙先生は「民事調停ゲームから考える司法参加」など3本の授業提案を書かれています。

他には、小貫篤先生(都立雪谷高校、現筑波大学附属駒場高・中)が「総理大臣ビンゴゲーム」など5本を書かれているのが注目されます。

いずれの授業案も「対話を通して」深めるアクティビティが組み込まれているのが特徴です。いわば、アクティブラーニングの事例集と言ってもよいかもしれません。

提案された授業例は、実際に試す(追試)されるとよいと思います。アクティブラーニングは流行ですが、ねらいを達成するために、対話(活動)に際して、分析道具や理論を持って指導することが必要になります。また、出てきた生徒の反応をもう一度反芻するような振り返りの場も必要になります。

これらの授業例がどこまでその条件にあてはまるか、若手の先生方をきたえる意味でも、全国で検証がのぞまれるところです。書かれた先生方も、そういう反応を期待されていると思いますが、どうでしょうか。

これだけの授業案を提示する熱意、それを形にしてゆく努力は頭が下がります。ただ、惜しむらくは、研究会の自費出版物なので、印刷分がなくなったら終わりとのこと。研究会のHPでのアップなども望まれますが、ヒトとカネの問題でこれは課題となっているとのことでした。

北海道の研究会でも、同様の事例集の企画が進んでいると聞いています。全国の研究会でこの種の取り組みがどんどんできて、ネットワークがつながると、日本の教育も大きく変わってゆく可能性が期待できそうです。

なお、実物をご覧になりたい方は、都立国際高校内の都公社研事務局(事務局長:宮崎三喜男先生)に問い合わせてください。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

先日発表された中学校の学習指導要領を、非常勤講師で出講している教室で学生と読み合わせしました。学生曰く、「これ日本語ですか」。冒頭の目標のところでもう、つまづきます。主語が何で、目的語が何で、動詞がなんなのか、パズルのような、また「寿限無」のような文章です。これを読み解け

れば、十分に忖度できる立派なお役人になれるというような官庁文書になってしまっています。別の学生曰く、「箇条書きにしてくれればいいのに」。

日本人のアイデンティティは日本語であるとする、少なくとも、この指導要領の文章は「愛国心」が不足しています。それをだれも告発しないとすると、日本の未来は暗いなどと、学生諸君に思わずアジってしまいました。(新井)

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇